

三者協働でこれからの授業を
設計してみよう
～コロナ禍での経験を踏まえて～

A班 藤田里実 先生
天野、滝口、山崎、幸森



実践講義：KUコンサルティング ～あなたの案が関大を変える！！～



(1) 授業種別	演習
(2) 授業概要	<p>本授業では、関西大学と連携で学部横断型のプロジェクト学習を行います。 本授業の特徴は、仮説設定から実行まで一気通貫でやり抜く実践型講義であることです。</p> <p>また本授業は通年での授業計画を立てています。 春学期には、課題発見力・課題言語化能力の醸成を目的として、講義を行った後に、関西大学内で課題や改善できるところを学生に探索してもらいます。その後、グループワークにて課題設定およびの課題解決策を探っていきます。</p> <p>最終的に、チームごとに課題および解決策のプレゼンをし、その中で実現可能性の高いものをコンペティション形式で決めます。コンペティションの順位決定は、関大生や教職員が投票できるようにします。</p> <p>秋学期には、コンペティションで一位を獲得した解決策を、実際にグループ間・グループ内で役割分担し、実行に移していきます。</p> <p>なお、本科目は20名の人数制限を設けます。希望者が多い場合は、無作為抽選します。</p> <p>今回の発表では、春学期の授業について示していきます。</p>



<p>(3) 学位授与方針との関係 (プログラムポリシー)</p>	<p>① (知識・技能) 学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。</p> <p>② (思考力・判断力・表現力等の能力) 学部横断型教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「考動力 (自律力、人間力、社会力、国際力、革新力)」を身に付けることができる。</p> <p>③ (主体的な態度) 自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。</p>
<p>(4) 到達目標</p>	<p>① (知識・技能) ・課題調査やプレゼンテーション技能を身に着ける。</p> <p>② (思考力・判断力・表現力の能力) ・課題発見力や課題解決力、課題言語化能力を身に着ける。</p> <p>③ (主体的な態度) ・グループワーク活動において主体的に参画できる。</p>
<p>(5) 授業手法</p>	<p>① 教員による資料等を用いた説明や課題等へのフィードバック</p> <p>② 学生による学習の振り返り</p> <p>③ 学生同士の意見交換 (グループ・ペアワーク、ディスカッション、ディベート等含む)</p> <p>④ プレゼンテーション (スピーチ、模擬授業等含む)</p> <p>⑤ 課題探究 (プロジェクト学習、課題解決型学習、ケーススタディ等含む)</p> <p>⑥ フィールドワーク</p>



(6) 授業計画	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション&グループ分け 第2回 課題発見のフレームワークについて講義（思考ツール等） 第3回 課題解決のフレームワークについて講義（整理・分析の方法） 第4回 フィールドワーク（千里山キャンパス内の課題の調査） 第5回 探究活動1（発見した課題の検討） 第6回 探究活動2（発見した課題の検討） 第7回 探究活動3（課題の解決策の検討） 第8回 探究活動4（課題の解決策の検討） 第9回 中間報告・フィードバック 第10回 探究活動5（中間報告のフィードバックをもとに内容修正） 第11回 探究活動6（プレゼン準備） 第12回 探究活動7（プレゼン準備） 第13回 探究活動8（プレゼン準備） 第14回 コンペティション・結果発表 第15回 振り返り会・フィードバック</p>
(7) 授業時間外学習	<p>プロジェクトで良い結果を導き出すためには、グループでの主体的かつ計画的な授業外学習が必須です。関大LMSやクラウドツールを有効に使い、正課外でもグループ活動を進めていきましょう。</p>

(8) 方法	⑦定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。 <ul style="list-style-type: none">・グループプレゼンテーション（40%）・学生間評価（30%）・LAからの評価（30%）
(9) 基準・評価	①（知識・技能） <ul style="list-style-type: none">・課題調査やプレゼンテーション技能を身に着ける。 →プレゼンテーションパフォーマンス（技術+資料）+プレゼンテーション内容（根拠をもとに問題設定できているか） ②（思考力・判断力・表現力の能力） <ul style="list-style-type: none">・課題発見力や課題解決力、課題言語化能力を身に着ける。 →意見の異なる他者とのグループワークにおける積極的な参加をし、最も適切な解答をグループで導き出せる。 →プレゼンテーション内容（中間・最終プレゼン時に各学生間&LAによるルーブリック評価） ③（主体的な態度） <ul style="list-style-type: none">・グループワーク活動において主体的に参画できる。 →グループへの貢献度（各学生間&LAによるルーブリック評価）
(10) フィードバックの方法	中間報告・最終発表時には教員からのフィードバックと学生同士でのフィードバックを行う。 また、各授業ごとに参加姿勢を確認する。



時配	学習内容と活動	授業中の留意点・評価
導入	<p>第5回前半：探究活動1 今後のグループワークの実施方法・注意点等についての説明</p> <p>中間報告までに、グループで課題の洗い出し・言語化・共有・課題設定・ブラッシュアップを実施する。 第1～3回の講義内容の振り返りをしつつ説明を行う。</p>	<p>説明を早い段階（授業スタート20分以内）で終わるように意識する。</p>
展開	<p>第5回後半～第7回：探究活動1～3 （フィールドワーク・グループワーク）</p> <p>グループで設定した課題について、現状分析や解決策を考えていく。 追加のフィールドワークが必要な際には、許可する。</p>	<p>LA・教員による机間巡視、サポートを行う。 1～3回の学習内容を活かし、グループワークに積極的に参加している。</p> <p>評価方法③ ・グループワーク活動において主体的に参画できる。 →グループへの貢献度（各学生間&LAによるルーブリック評価）</p>
まとめ	<p>第8回：探究活動4</p> <p>第9回 中間報告に向けての資料整理・発表準備。 次回（中間報告）について予告。</p>	<p>次回の中間報告についての説明を行う（グループワークの時間はないこと、1グループあたりの発表時間、評価も行うこと等）。</p>